

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370501302		
法人名	アンビシャス名古屋有限会社		
事業所名	ふれあいタウン中村		
所在地	愛知県名古屋市中村区名楽町二丁目17番地林ビル1階		
自己評価作成日	平成23年1月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2本館ビルディング9階		
訪問調査日	平成23年2月23日	評価確定日	平成23年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員が働きに来ているという感覚ではなく、家にいる感覚で介助。 ・施設という言葉は使わない。 ・一日一回大笑いをする(スタッフ含む) ・その時の要望をその時に叶える努力と実行力を持っている。 ・開設以来利用者間のトラブルがなく皆さんがお互い助け合い生活している。 ・入居されている皆さんがふれあいタウン中村を施設とっていないくらい家庭的な毎日。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>大門通り商店街に近く、歴史を感じさせる街並みが広がっている。古くからの家並みが続き、地域住民も高齢化が進む地域である。すぐ近くには総合病院や中村日赤があり、保健所や区役所も500m以内の距離にある。管理者は以前、特別養護老人ホームで働いた経験から「もっと人間らしい生活・空間を」と決意し、「ふれあいタウン中村」を立ち上げた。初志はそのまま理念に反映し、「家庭」であることを重視し、入居者の生活の質を確保するためにも、1ユニット6人という少人数を堅持している。家庭的な雰囲気の中、社会とのつながりを大切にしながら、日々の暮らしの中に楽しみや、やさしさを感じてもらえる生活を目指している。春にはつくし取りに出かけ、入居者に調理方法を教えてもらいながら一緒に料理をしたり、個々に合わせたリハビリを考え、計算や折り紙、塗り絵等、楽しんで取り組んでもらえるよう工夫している。定期的に行われる落語や手品等のボランティアの訪問は入居者も楽しみにしている。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は管理者が作成し玄関に掲示されている。出勤時等に確認し共有している。	「特別よりも日常」を大切に、家庭的な雰囲気の中、社会とのつながりを大事にしながら地域と共にある事業所を目指している。「施設」ではなく「家庭」を重視し、6名1ユニットという規模は普通の家族の人数に近く、一つの家族として個々の生活の質を大切にしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時に近所の方と挨拶をしたりお話をしたりしてつながりを持っている。 また、地域の行事(清掃等)にも誘って頂き参加する事もある。地域の中学校の職場体験の受け入れも行っており、交流が来ている。	町内会に加入し町内の清掃活動に参加している。開設から5年が経過し、当初は挨拶を交わしながらも認知症の理解はまだ薄く戸惑いもあったが、今ではよく理解してもらっており、気軽に入居者に話しかけてくれる。開設時からビルのオーナーの理解が得られ協力いただいている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外の掲示板にリハビリ方法などを書いた紙を掲示している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施している。	協力歯科医・地域代表・家族代表・管理者をメンバーとし、偶数月に、今年度も6回の開催が確認された。行事報告や市からの指導内容等の報告、他施設見学時の報告、入退居の現状、外部評価について報告している。協力医からは入居者の性格やADL(日常生活動作)をよく理解していることから、個々に合わせたりハビリの方法についてアドバイスをもたらしている。	運営推進会議がより充実した会議となるよう、地域包括支援センターへ参加を働きかけ、率直な意見交換、サービスの向上に具体的に活かしていく取り組みに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回新聞を発行している。新聞内にて日常風景や取り組みを分かりやすく紹介している。 中村区の担当者の方は時折来てくださる。	区の保護係とは、日常的に行き来があり連携している。そのため、担当者も支援内容や対応について把握している。権利擁護について区の担当者から説明も受けた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	十分に理解した上で身体拘束はゼロである。	以前は黙って一人で外出する方がいて、近所の方から連絡を受けたりしたこともあるが、現在はない。拘束をしない方針は徹底され、玄関も常時開放しており、職員が一人になって持ち場を離れる時だけ施錠している。リビングでは誰がどこにいるか常時把握できている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に話し合いの場を持ち新しい情報はスタッフ間で共有している。スタッフも意識を強く持ち虐待はゼロである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中村区の担当の方から制度の説明を受けており、必要に応じて活用できる状態にある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	[契約書・重要事項説明書]は契約時に読み合わせを行い、十分に説明を行う。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に[意見箱]を設置、匿名にてクレームを受け付ける。また契約書に区介護保険課と国保連の苦情相談窓口の連絡先を記載している。	ホーム便りを毎月発行している。独居の人が多く家族会はないが、家族代表は運営推進会議に出席している。入居者の意見や要望については、「ふれあいシート」を利用している。シートは40項目にわたり本人の生活の歴史が記載され、本人の意思の推測、会話の糸口に活用している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場にほぼ毎日出ているのでスタッフも意見や提案しやすい状況にある。対応もその場で出来るようになっている。	管理者はほぼ毎日ホームにあり、職員の状態をよく把握している。人数が少ないため職員間、入居者との相性等も把握しており、絶えず感謝の言葉を欠かさない。職員も単に介護を仕事としてではなく、親身に入居者の状態やケアの提案をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がスタッフとしてほぼ毎日現場に出ているので努力や実績はすぐに評価出来るようになっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた育成、職員の個性を大事に育てる。要望があった時には外部の研修を受ける。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所との交流及び研修の受け入れを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ふれあいシートを作成し、生活暦をしっかりと把握。初期は家庭訪問をし話をしっかりと聞く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問・不安については分かりやすく説明。しっかりと時間をかけて話す。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入所が最善か、本人・家族・ケアマネージャーとしっかり協議する。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	【スタッフと介護を受ける人】という関係はなく、家族的な関係の中生活を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方への面会時間の縛りはなく、家に遊びに来るような感覚で面会が出来るような関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出掛けたり、日常の散歩を通じて関係を途切れないように行う。 また、友人等も気軽に面会に来ていただいている。	区内の人が多いことから、散歩に行けば顔見知りに出会うのが日常である。近所の商店街や神社などにはよく出かけている。入居前の住環境は必ず確認に出かけている。入居者から行きたい、したいと要望が出た時には、その場で実行することをモットーとしており、一緒に出かけることも多い。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に精神状態の把握をし、間に入り細やかに対応をする。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎月発行の新聞を送る。写真の提供。また、ホームに遊びに来ていただける環境を作る。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩・買い物・散髪など可能な限りその時に実現する。	「ふれあいシート」により本人の生活歴や好きな色、俳優、映画などその人の歴史が詳細に記され、日常の対応の助けになっている。24時間シートには時系列で出来事・考えられる主要因・その対処が記入され、他の職員はそれに対する自分の意見が記入できるようになっており、ケアが独善的になることを防ぐのに役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ふれあいシートを作成。生い立ちや趣味など細部に至るまで聞き各スタッフが把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活シートの作成。変化があった時には更新をし、常に把握されている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人を交え定期的に話し合うことで現時点と将来に向けて必要であることが計画に盛り込まれている。	「ふれあいシート」の情報を基本とし、日々追加される24時間シートにより、職員はその日気づいたことを記入し、他の職員の意見を聴き、申し送り事項として変化が共有される。その変化と職員の提言を基に管理者が介護計画の原案を作り、ケアマネジャーに提案している。変化があればその都度、計画の見直しが行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・昼・夜と時間帯での変化が分かる介護記録をつけることで対応。 様々な情報が記入してあり介護計画の見直しに役立っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩の日常的な実施。また生活暦や趣味を活かしたサポートを行う。 要望があった事は可能な限り対応する。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	落語やマジックのボランティアを定期的の実施。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院・往診がスムーズである医院と提携しており安心して利用していただいている。 また要望があれば他医院への受診も可能。	希望があればこれまでのかかりつけ医を継続できるが、多くの方は提携先医療機関をかかりつけ医としている。受診の付き添いは職員が行い、協力歯科医からは受診、往診、口腔ケア指導のほか運営推進会議への出席など様々な形で協力を得ている。救急搬送の時には、情報が正確に伝わるよう情報提供表を用意している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置。身体状況・怪我などの対応の仕方を各スタッフへ指導していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際の情報交換は密に行い退院後の身体状況に対する生活環境の支援。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に意見、意思を確認。 書面に残しターミナルケアを行う。	入居時に重度化した場合の指針を示し、本人や家族(代理人)、管理者が話し合い、看取りに関する取り決め事項を文書にして確認している。状況の変化に応じてその都度話し合うが、多くの場合は食事が摂れなくなったり、医療が必要になり医師の判断により入院している。入院先にはこまめに見舞いに行き支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや看護指導により知識をつける。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を利用者を含め実施している。	年2回入居者と一緒に避難訓練をしている。また、消防署から消火器の使い方や避難訓練について指導を受けている。近隣には災害時の協力をお願いしており、ビルのオーナーは何かあれば助けに駆けつけてくれる。災害時に備えて食料、水、おむつ、毛布などの物品を準備している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の性格などを把握しその人の合った話し方で対応している。	敬語で話したり、親しみをもって話す等、一人ひとりの性格に応じて支援している。本人の誇りや人格を尊重し、その人にあった対応を心がけ、悩みや人に聞かれたくない話を聞く時には居室で行っている。書類の管理に気をつけ、個人情報の保護に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者の話がしやすいスタッフと個別で話が出来る時間を作り日常的に要望や不安を把握。他スタッフと共有している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者のやりたい事を最優先させる。やむを得ず希望に添えない場合は説明をし理解を得る。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやオシャレは実践されている。またサポートも行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>突発的に外食や出前を取ったりしえ食事に変化をつけている。</p> <p>食器洗いや盛り付けなどは利用者の方にお手伝いをしていただいている。</p>	<p>献立は入居者の話の中に出た物などを取り入れて決めている。調理は職員が行うが、台所から調理の様子がよく分かり音や香りが伝わってくる。つくしなど季節を感じさせる食材を取り入れている。職員が同じ食事を摂ることはないが一緒にお茶を飲みながら話をしたり介助をしている。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養図書を参考にコントロール。また水分量は各自に合わせ医師のアドバイスのもとコントロールしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>歯科医師の指導をいただき食後の歯磨きやうがいを実施。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>紙パンツから下着へもどす事ができた実績があり支援として成功している。</p>	<p>失敗をなくすよう時間を見計らってこまめに声をかけ、誘導を行っている。誘導の回数を増やし定期的に誘導することによって、紙パンツから布パンツに移行した例もある。入居者の羞恥心に配慮した、さりげない介助や声かけに努めている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>廊下に設置した手すりを利用して足を上げる運動をしたりTV体操を利用したりして運動不足にならないようにしている。寒天などの食物繊維の多い食べ物を献立に取り入れ便秘の予防をしている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>基本的な入浴日は各利用者と話し合い決めているが、希望があった場合や入浴が必要な場合はいつでも対応している。</p>	<p>入浴は週3回程度だが希望があればいつでも入浴することが可能である。午前と午後に男女に分けて入り同性介助を行い、季節によりゆず湯、菖蒲湯を楽しんでいる。入居者にはできることは行ってもらい、できないところを職員が介助している。音楽が好きな人には好きな曲をかけてゆっくりと楽しんでもらっている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>各自生活パターンが違い、自室で昼寝されたりフローアードウトとされたりしている。消灯時間は特に決まっていない。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬管理の徹底。説明書は薬箱にファイルされており確認できるようになっている。薬の変更があった場合は申し送りノートへ記入し各スタッフが確認をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画に盛り込まれている。 各自得意分野があり自然に中心となり様々なことが行える環境を作っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き入れ外出をする。個別に対応を行う。	気候の良い時はできる限り散歩に出かけている。職員と入居者1~2名でその日によって近所を一周したり、公園や神社に出かけている。また、1対1で個人の買い物のために近くの商店やスーパー、大型店に出かけるなど個別に対応している。花見などは近隣を中心に出かけてる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には自己管理。 ホームにて管理の方は一緒に出掛け、支払いは利用者が行う。その際はスタッフが介助に入る。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に使っていただける状況にある。ホーム内にはがきや切手を常備する事により手紙を書きたいときにはすぐに出せるようになっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明にはフルスペクトルランプを使用し太陽光を発生させている。空気を清浄に保つためプラズマクラスターを発生させている。温湿度計を室内に設置し常に温度、湿度を快適に保っている。	壁には入居者の描いた絵や塗り絵、紙細工のお雛様や昭和の時代の暮らしの様子が伝わってくる懐かしい風景の写真が飾られている。居間は家庭的な雰囲気、テレビの音量にも配慮され落ち着いており、入居者、職員が家族のような距離感で接している。空気清浄機や照明、温室度計で快適な空間作りをしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーフロアとテーブルフロアの使い分けによりそれぞれのパーソナルスペースが出来ている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階で今まで生活で使っていたものを持ち込んでいただくようにしている。	部屋には仏壇やぬいぐるみなど本人が大切にしていた物を持ってきてもらっている。壁には写真や職員からもらった誕生日の似顔絵などが飾られている。建物の構造上、窓がない居室があるがドアのガラス窓部分を大きくしたり、部屋ごとの壁紙の色を変えるなど工夫している。部屋ごとに火災報知機が設置されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室以外に段差はなく転倒の心配は少ない。それぞれの居室もベッドや布団など、個人に合わせて家具の配置などを行っている。		

(別紙4(2))

事業所名 : ふれあいタウン中村

作成日 : 平成23年4月4日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなると、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に市町村や地域包括支援センターへの参加要請を行っていない。	運営推進会議がより充実した会議となるよう、市町村や地域包括支援センターへの参加を働きかけ、率直な意見交換、サービスの向上に具体的に活かしていく。	現在はメンバーの都合上、運営推進会議は日曜日開催となっている。調整を行い、市町村や運営推進会議への参加要請を行う。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。